

電子ブック

AI搭載のデータマネジメントがサプライチェーン リスクを緩和する：レジ リエンスを強化するため のデータの戦略的役割

AI搭載のデータマネジメントがサプライチェーンリスクを緩和する：
レジリエンスを強化するためのデータの戦略的役割

目次

エグゼクティブサマリー	3
高まるサプライチェーンのリスク	4
サプライチェーンのレジリエンスにおけるデータの戦略的役割	5
サプライチェーンの主なリスク要因とそのデジタル対策	6
AI搭載の統一データプラットフォームへの移行	7
新たなサプライチェーンシナリオの登場、 信頼できるデータの必要性	8
インフォマティカのAI搭載クラウドデータマネジメント	9
ROIの証明：重要なのは実際の成果	11
エンドユーザーによる活用を促進して長期的な成功を実現	12
企業情報	13

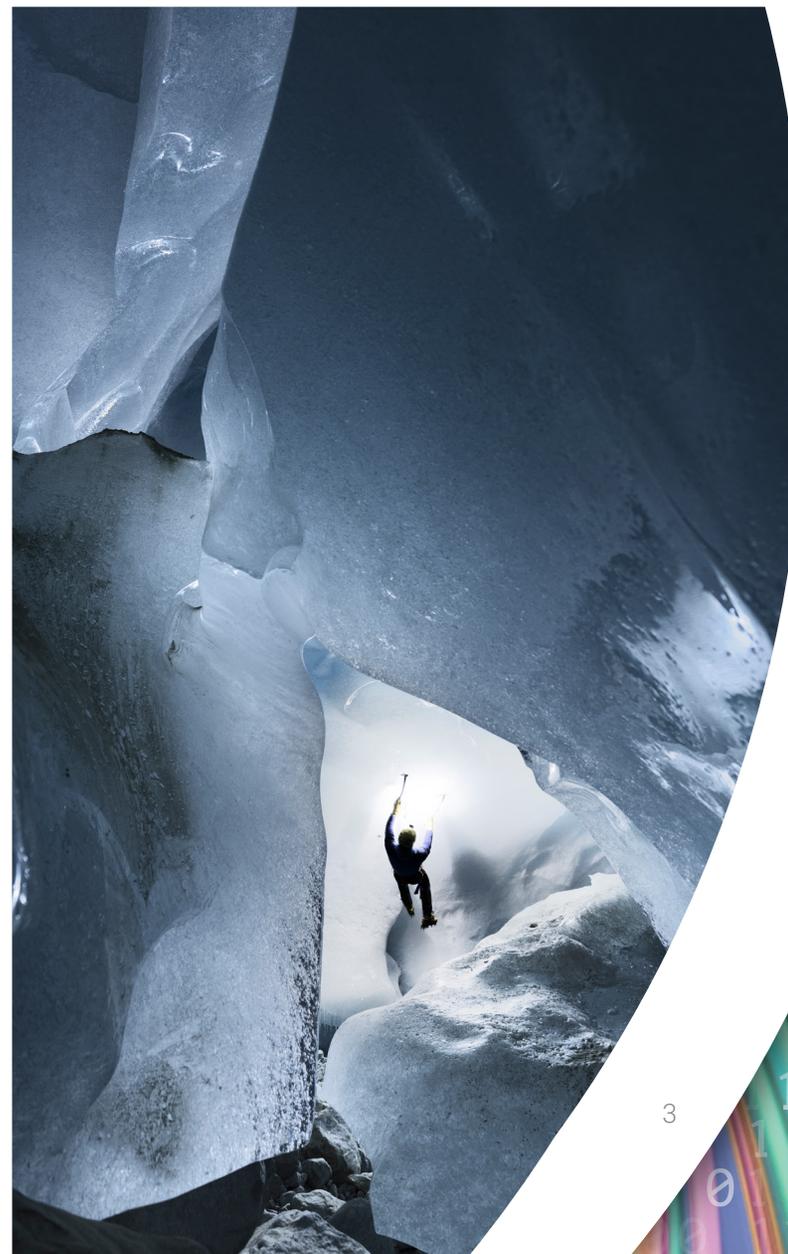
AI搭載のデータマネジメントがサプライチェーンリスクを緩和する：
レジリエンスを強化するためのデータの戦略的役割

エグゼクティブサマリー

地政学的リスク、関税、気候、サイバー脅威、ロジスティクス上のボトルネックなど、企業のサプライチェーンは常に容赦ないプレッシャーにさらされています。このような状況にも関わらず、調査によるとリスクを完全にコントロールできていると回答した企業はわずか8%にとどまっており、86%¹が「現在のリスクマネジメントツールでは不十分である」と述べています。問題の原因は何か？それは、データの断片化／サイロ化が迅速な対応を妨げているところにあります。

この電子ブックでは、AI搭載クラウドデータプラットフォームを通じて、サプライヤーデータ、製品データ、位置データを唯一無比のソースに統合する方法について説明します。リアルタイムのインサイトを取得することで、サプライチェーンの中断をプロアクティブに発見して、コンプライアンスを徹底し、対応を高速化し、コストを削減できます。その結果、より俊敏（アジャイル）で復元力（レジリエント）のあるサプライチェーンを実現して、不確実な時代で成功を収めることができます。革新的なソリューションを活用して、激動の時代に対応する方法をご覧ください。

¹ <https://www.wtwco.com/en-gb/insights/2025/05/wtw-global-supply-chain-risk-report-2025>



AI搭載のデータマネジメントがサプライチェーンリスクを緩和する：
レジリエンスを強化するためのデータの戦略的役割

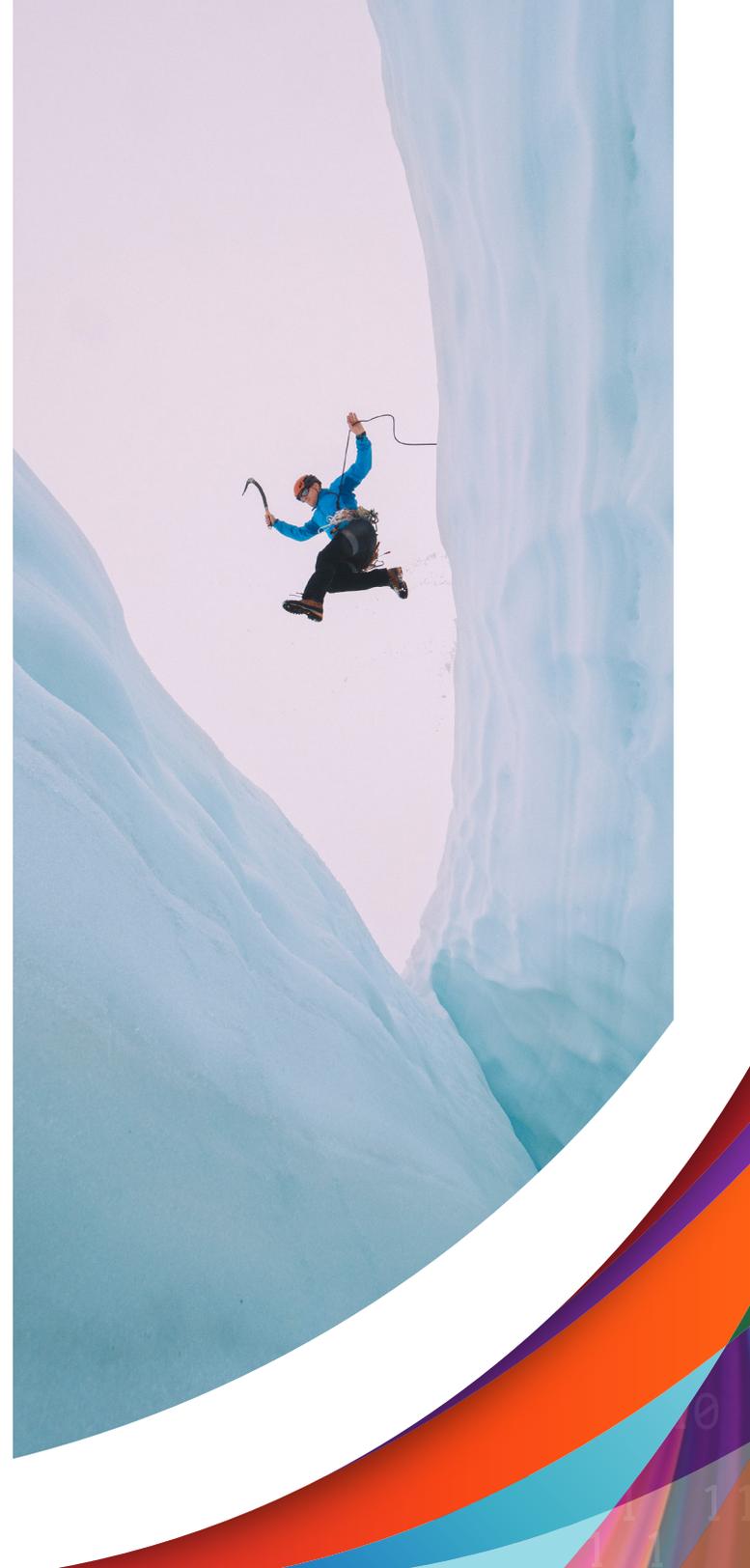
高まるサプライチェーンのリスク

今日のサプライチェーンは、関税の上昇、地政学的な対立、気候変動、サイバー攻撃、脆弱なロジスティクスなど、さまざまなプレッシャーにさらされています。調査によると64%²の企業が関税の上昇によってコストが増大していると報告しており、45%²の企業がサプライチェーンの中断によって製造と配送に遅延が発生していると回答しています。多層型のサプライヤー構造と複雑な規制が事態をさらに複雑にしています。

従来のリスクマネジメントは、あくまでも事後対応型の対策であり、それぞれの対策が連携していません。問題が大きくなってから慌てて対応しようとする、高いコストにつながる遅延や罰金が発生し、信頼を失う結果となります。統一されたデータビューとAIドリブンなインサイトがあれば、リスクを事前に予測して予防することはほぼ不可能です。

競争力を維持するためには、断片化したデータや旧式のアプローチから脱却して、AI搭載の統合プラットフォームに移行する必要があります。一元化されたシステムがあれば、リアルタイムにリスクを検知して、コンプライアンスを監督し、迅速に意思決定を行えます。これにより、予期せぬ事態を回避して、コストをコントロールし、俊敏性を高めて、あらゆる中断に対応できます。

² <https://iccwbo.org/news-publications/policies-reports/icc-pulse-survey-2025-business-reactions-to-new-u-s-tariffs/#top>



AI搭載のデータマネジメントがサプライチェーンリスクを緩和する：
レジリエンスを強化するためのデータの戦略的役割

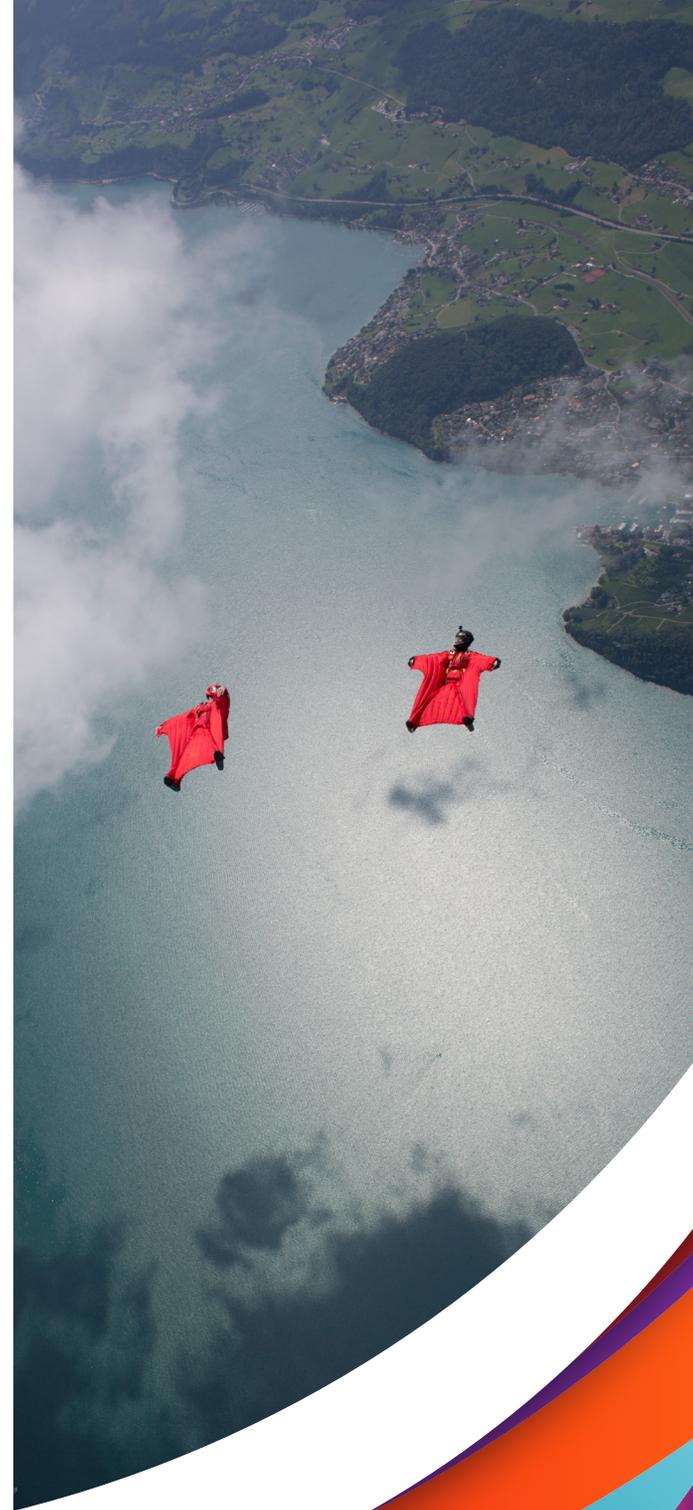
サプライチェーンの レジリエンスにおけるデー タの戦略的役割

レジリエンスの基盤となるのはデータです。リーダーの87%³がサプライチェーンの可視性は極めて重要だと回答しているものの、半数近くがサプライヤーのパフォーマンスや主なリスクに関する明瞭なインサイトが欠如していると述べています。このようなインサイトの欠如は、予期せぬ中断を招く可能性があります。

さまざまなソースに分散しているデータを1つのエコシステムに統合することで、より迅速に製品をリリースして、コンプライアンスを改善し、顧客の信頼を強化できます。また、自動化を進めることで、チームはイノベーションに専念できるようになります（定型的なサプライチェーンタスクの63%³以上が自動化可能だと考えられています）。

AI搭載プラットフォームを活用すれば、サプライヤーリスク、在庫、出荷、市場環境を総体的に監視できます。そして、データの信頼性とアクセス性を強化することで、中断発生時に速やかに対応するための俊敏性を獲得できます。貴社は中断に迅速に対応するための準備ができていますか？

³ <https://assets.kpmg.com/content/dam/kpmg/xx/pdf/2023/09/kpmg-future-of-supply-chain-report.pdf>



AI搭載のデータマネジメントがサプライチェーンリスクを緩和する：
レジリエンスを強化するためのデータの戦略的役割

サプライチェーンの主なリスク要因とそのデジタル対策

サプライチェーンデータは、多くの場合、複数のエンタープライズ リソース プランニング (ERP) システム、サプライチェーンマネジメント (SCM) システム、製品ライフサイクルマネジメント (PLM) システム、レガシーシステムに分散しています。情報がサイロ化されていると、重要なインサイトを見逃してしまい、対応が遅れ、リスクマネジメントを効果的に実行できません。サプライヤーデータ、製品データ、位置データについて信頼できる統合ビューがなければ、しっかりとした対策を実行できず、コンプライアンス違反が発生し、顧客満足度が低下する恐れがあります。

幸いなことに、これらのデータ自体は企業が保有しています。必要なのは、クレンジングとガバナンスを通じてこれらのデータを実践につながるインテリジェンスへと変換することです。

主なリスクとそのデジタル対策を以下に示します。

- **地政学的リスクと関税リスク**：AIアナリティクスにより、関税リスクを評価できます。代替のサプライヤー／経路が推奨されるため、コストや中断を削減できます。
- **気候リスクと環境リスク**：リアルタイムの環境モニタリングとAIドリブンのシナリオプランニングにより、不測の事態が発生した際の業務を効果的にサポートできます。
- **サイバーセキュリティ脅威**：一元化されたセキュアなデータプラットフォームにより、異常を検知して、アクセスを厳格にコントロールすることで、デジタルサプライネットワークを保護できます。
- **ロジスティクス上のボトルネック**：予測アナリティクスにより、経路決定と安全在庫を最適化して、高コストにつながる遅延を緩和できます。

統合**データマネジメント**プラットフォームを導入して、多様なデータソースのクレンジング、接続、ガバナンスを行うことで、迅速にリスクを検知して、コンプライアンスを徹底し、自信を持って意思決定を行えるようになります。このようなプラットフォームは、エンドツーエンドの可視性、AIアラート、**マスターデータマネジメント (MDM)** を備えているため、高品質の情報と拡張可能な自動化を通じて、手作業によるミスを減らし、効率を高め、優れた成果を達成できます。



AI搭載のデータマネジメントがサプライチェーンリスクを緩和する：
レジリエンスを強化するためのデータの戦略的役割

AI搭載の統一データプラットフォームへの移行

断片化したツールと手作業のプロセスがリスクに対する可視性や俊敏性の妨げとなっている場合は、以下の手順を実行します。

- ① データのサイロと統合のギャップを評価する：データの断片化と重複をマッピングして、改善が必要な領域を特定します。
- ② 特定のベンダーに依存しない、クラウドネイティブなプラットフォームを導入する：ベンダーロックインに陥ることなく、サプライヤーデータ、製品データ、位置データ、トランザクションデータを統合できるソリューションを選択します。
- ③ AIを活用したリスク検知とリアルタイムアナリティクスを導入する：**データ品質**を自動的に強化して、瞬時にインサイトを獲得します。
- ④ 堅強なデータガバナンスを確立する：全員が責任を共有する文化を促進して、データの整合性を長期にわたって確保します。

拡張可能かつインテリジェントなプラットフォームを段階的に導入することで、業務の中断を最小限に抑えて、ツールが無秩序に増加する状態から、まとまりのある管理可能なエコシステムへと移行できます。これにより、俊敏性と応答性に優れたサプライチェーンへと速やかに移行できます。



AI搭載のデータマネジメントがサプライチェーンリスクを緩和する：
レジリエンスを強化するためのデータの戦略的役割

新たなサプライチェーンシナリオの登場、信頼で きるデータの必要性

次のような重要なサプライチェーンシナリオに対応するためには、信頼できる統合データが不可欠です。



サプライヤーリスクマネジメント：サプライヤーデータを統合およびエンリッチ化して、脆弱性を特定し、サプライヤーの業績を総体的に評価して、中断が発生した際には、信頼できる代替のサプライヤーに迅速に切り替えます。



デジタルツイン：センサーデータ、メンテナンスデータ、サプライチェーンデータを統合して予測モデルを構築することで、プロアクティブメンテナンスを実施して、ダウンタイムを削減し、業務の生産性を最適化します。



デジタル製品パスポート：製品ライフサイクル全体を透明化することで、規制に対応して、顧客の信頼を獲得し、コンプライアンス違反のリスクを回避します。



製品リコール：製品データとサプライヤーデータを確実に結び付けることで、影響を受けた資材を正確に追跡します。これにより、エラーを最小限に抑えて、厳格な規制手順に従いながら、迅速にリコールを行います。



持続可能性とESGレポート：断片化したデータを統合して、監査に対応した正確なESGレポートを作成することで、厳格化する規制を確実に遵守し、持続可能性に関するリーダーとしての立場を確立します。



AIエージェント対応とオムニチャネル体験：各種プラットフォーム/チャネルのデータを整流化および調整して、そのデータをAIエージェントで活用することで、卓越した顧客体験を提供して、業務の俊敏性を強化します。



デジタルネームプレートとアセット管理シェル：機械可読な標準形式のデータに基づいてアセットのライフサイクルをシームレスに管理することで、効率性と業界規制へのコンプライアンスを確保します。

信頼できるデータは、上記のシナリオで必要となるだけでなく、業務のレジリエンス、イノベーション、将来も安心なサプライチェーン戦略のための基盤となるものです。

AI搭載のデータマネジメントがサプライチェーンリスクを緩和する：
レジリエンスを強化するためのデータの戦略的役割

インフォマティカのAI搭載クラウドデータマネジメント

断片化したツールでは、サプライチェーンのリスクは管理できません。あらゆる意思決定を、品質、連携、ガバナンスに優れたデータに基づいて行うことが重要です。インフォマティカのIntelligent Data Management Cloud™ (IDMC) (次ページの図1)を使用すれば、サプライヤーデータ、製品データ、位置データのゴールデンレコード（高品質で唯一無比のレコード）を作成して、より迅速かつスマートにリスクを軽減できます。

AIドリブな自動化により、高コストの原因となる中断やコンプライアンス違反が発生する前に潜在的な問題を特定できます。つぎはぎのポイントソリューションはサイロの原因となるので避けましょう。代わりに、ビジネスに応じて拡張でき、ワークフローを整流化し、ツールの無秩序な増加を緩和し、ストレスのないユーザー体験を備えた、クラウドネイティブなプラットフォームを選択しましょう。

インフォマティカを活用してプロアクティブなAI搭載リスクプラットフォームを構築する方法：

- **データ準備状況の評価**：データ成熟度のギャップを特定して、リスク、コスト、コンプライアンスに最も影響を及ぼす取り組みに集中します。
- **マルチドメインマスターデータマネジメント (MDM)**：サプライヤー、アセット、製品、位置などのデータの360度ビューを確立して、購買を最適化し、サプライヤーの信頼性を強化します。
- **シームレスな統合**：ERP、SCM、PLM、アナリティクスなどのシステムを接続することで、サイロやガバナンスの問題を発生させることなく、円滑なデータフローを実現します。

- **データガバナンス**：法規制へのコンプライアンスとリスク低減のためのポリシーを適用します。
- **高度なデータエンジニアリング**：AI予測と自動化を活用して在庫を最適化することで、在庫切れや過剰在庫を防止します。
- **運用データの統合**：トランザクションデータをリアルタイムで同期することで、ボトルネックを解消して、コストを削減し、コラボレーションを強化します。
- **データとパイプラインのモニタリング**：データリネージとデータ品質の透明性を維持することで、アナリティクスとインサイトの正確性と信頼性を確保します。

サプライチェーンのレジリエンスと競争力を強化して、将来も安心な体制を整えるためには、特定のベンダーに依存しない、AIとデータ品質機能が組み込まれた拡張可能なプラットフォームに投資することが重要です。インフォマティカのソリューションを活用すれば、不確実な時代で成功を収めるための明瞭性、決断力、実行能力を獲得できます。

AI搭載のデータマネジメントがサプライチェーンリスクを緩和する：
レジリエンスを強化するためのデータの戦略的役割

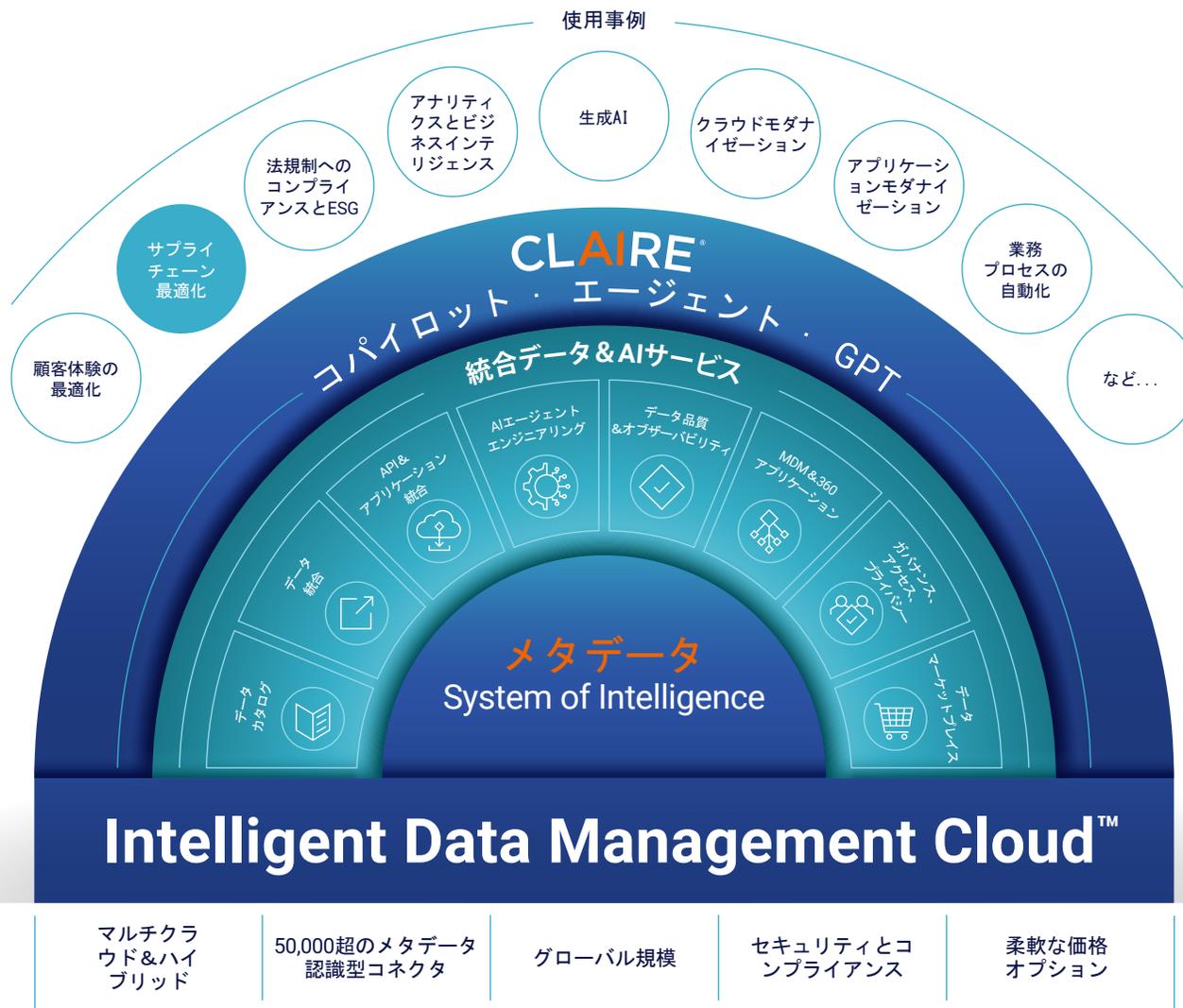


図1：インフォマティカのIntelligent Data Management CloudとAI搭載CLAIRE

AI搭載のデータマネジメントがサプライチェーンリスクを緩和する：
レジリエンスを強化するためのデータの戦略的役割

ROIの証明：重要なのは実際の成果

インテリジェントなデータマネジメントにより、サプライチェーンの整流化、透明性の強化、コストの最適化などを通じて、目に見える成果を達成できます。インフォマティカが提供するAIドリブンプラットフォームがもたらす強力なROIを示す実際の顧客事例を紹介します。

- ✔ **Psycho Bunny社**：Psycho Bunny社は、オムニチャネル戦略を展開するファッションブランドです。同社は、インフォマティカのIntelligent Data Management Cloud (IDMC) 導入からわずか6か月で受注管理システムを強化しました。その結果、北米で30店舗の新規開店、30%の売上拡大、在庫可視性の改善（精度99%）、過少配送の93%削減、分割配送の50%削減に成功しました。同社のサプライチェーン変革について、詳しくは[こちら](#)をお読みください。
- ✔ **Lagardere Travel Retail社**：IDMCを導入したLagardere社は、クラウドファースト戦略の一環として、在庫計画を最適化して、手作業によるサプライチェーンプロセスを自動化しました。シームレスなデータ統合により、業務の生産性とレポート作成の正確性が向上した結果、透明性を維持しながら、市場の変化へ迅速に対応できるようになりました。同社の事例について、詳しくは[こちら](#)をご覧ください。

ROIの概要：インフォマティカのお客様は以下を通じてROIを達成しています。

- ✔ **売上拡大**：優れた在庫管理により、売上を促進できます。
- ✔ **コスト最適化**：自動化により、人件費と無駄を削減できます。
- ✔ **法規制へのコンプライアンス**：罰則やリスクを最小限に抑制できます。
- ✔ **効率性の向上**：リアルタイムデータにより、意思決定を高速化できます。

AI搭載のデータマネジメントがサプライチェーンリスクを緩和する：
レジリエンスを強化するためのデータの戦略的役割

エンドユーザーによる活用を促進して長期的な成功を実現

テクノロジーは導入するだけでは意味がありません。重要なのは、そのテクノロジーのメリットを長期的に享受し続けることです。その場しのぎの解決策は、ツールの無秩序な増加や非効率につながるため避けましょう。代わりに、直感的、拡張可能、かつパワフルなプラットフォームを選択します。タスクを自動化して、データの明瞭性とアクセス性を高めることで、ユーザーの信頼を獲得します。データに対する責任の共有、透明性の高いコミュニケーション、継続的なトレーニングにより、サイロを解消します。

ツールを持続的に使用して長期的な成功を収めるためには、経営幹部の支持、継続的なフィードバック、各個人に合わせて設定されたインセンティブが重要です。すべてのチームが積極的にツールを使用するようになれば、そのツールに対する投資が無駄にならないだけでなく、そのツールがビジネスに変革をもたらすことになります。

今すぐサプライチェーンを変革

サプライチェーンは待ったなしの取り組みです。断片化したデータは、貴社の最大の弱みとなる可能性がある一方で、最大の強みに変えることもできます。インフォマティカを活用すれば、混乱したデータ環境を明瞭なデータ環境へ、リスクをレジリエンスへ、そしてデータを最も価値ある資産へと変えることができます。詳細については、インフォマティカまでお問い合わせいただくか、**その他の資料**をお読みください。今すぐサプライチェーンを変革しましょう！

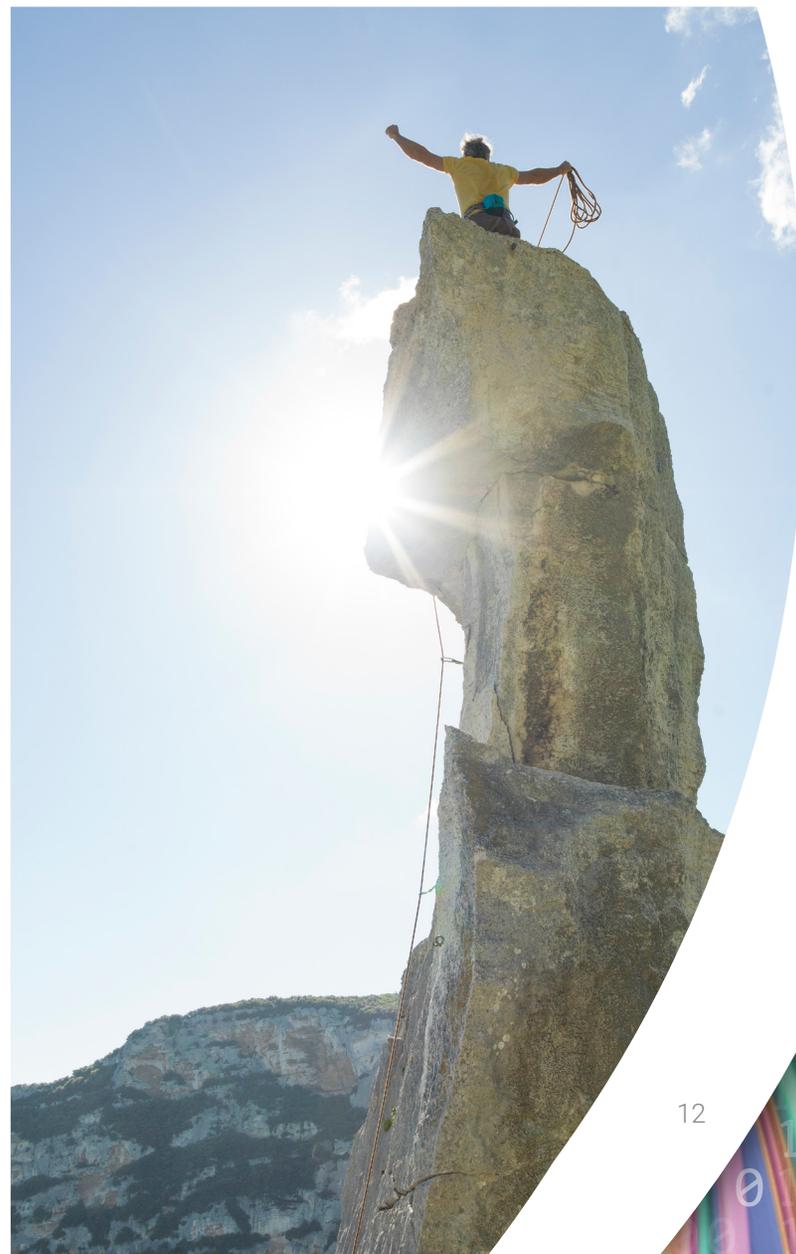
追加関連資料



CIO向けガイド：AIドリブンな戦略でサプライチェーンを革新する
4つの方法



サプライチェーンの最適化に関するソリューション概要



企業情報

インフォマティカ（NYSE：INFA）は、AIを活用したエンタープライズ向けクラウドデータマネジメントのリーダーとして、各企業がデータとAIの価値を最大限に引き出せるように支援しています。インフォマティカのIntelligent Data Management Cloud™は、あらゆる環境（クラウド、ハイブリッド、マルチクラウド）にわたって、データを接続、管理、統合するための業界先進の統合ソリューション一式を備えた、包括的かつエンドツーエンドなプラットフォームです。このプラットフォームにより、増大するデータの複雑性と量に対応できます。CLAIRE® AIを搭載したインフォマティカのプラットフォームは、あらゆる主要クラウドプロバイダー、データウェアハウス、アナリティクスツールとネイティブに統合できるため、ベンダーロックインに陥ることなく、採用するソリューションを自由に選択できます。また、データのガバナンス、業務の簡素化、確実な拡張を通じて、優れたROIを達成できます。

インフォマティカのソリューションは、100か国近くの約5,000社の組織（Fortune 100企業の80社以上を含む）に採用されており、特定のプラットフォームに依存することなく、クラウドデータドリブンなトランスフォーメーションを推進するためには不可欠な存在となっています。インフォマティカ。データとAIの価値を最大限に引き出す。

IN19-5230-0925

© Copyright Informatica LLC 2025. Informatica、Informaticaロゴは、米国およびその他の国におけるInformatica LLCの商標または登録商標です。インフォマティカの商標の最新版については、<https://www.informatica.com/ja/trademarks.html>をご覧ください。その他すべての企業名および製品名は、各社が所有する商号または商標です。本文書に記載されている情報は、予告なく変更されることがあり、現状のまま提供され、明示または黙示を問わず一切の保証を伴いません。

informatica.com

Where data & AI come to



本社

〒105-6226 東京都港区愛宕2-5-1

愛宕グリーンヒルズMORIタワー26階

電話：03-6403-7600(代表)

FAX：03-3433-1021

informatica.com/ja

x.com/Informaticajpn

お問い合わせ